分光化学センターより

藤　原　鎮　男

当センターの運営は当然のことながら運営委員会で議論し，基本方針，当面の計画，予算の執行などをきめてゆくのであるが，さらにその前段階で，こういう問題にどんな風に考えたらよいかをセンター発足当時島内センター長のもとに幹事をきめ，かなりの頻度で話し合うことにした。メンバーは島内氏のほか大木，黒田教授に藤原の計４名で化学教室の研究室にまずアンケートをおくり分光化学として考えられる研究テーマをおききし，また幹事の間で討議し，結局，レーザー科学，電子分光，高温系の分光などを当面のテーマに考えることとした。なお，その他のものとして分光システム，分光データバンクなどもあげられた。ただし，昭和51年度は設定されて間もなく諸事忽忙の間に了ったので，具体的活動は昭和52年度に入ってからということになった。

そこで今年度に入ってあらためて運営の方針を運営委員会全体にはかり，きまったのが以下のようなことである。

すなわち，分光化学センターの事業としては設立当初の企画の通り，理学部全体の研究者のために分光の便宜をはかることはもちろんであり，また，これとならんで，分光化学として最も高いレベルの研究を推進したい。ついては，後者を二つにわけ，当面，上記の具体的テーマについて研究会をもち，実際の研究を進める。さらに理学部全体として分光化学センターの研究方向を考えるという視点で，分光化学シンポジウムをもつことにしよう。研究会はいわば，当面の研究に理学部の現在の叡智を導入したいということであり，後者は長期的視野で，理学部全体で分光化学センターの研究を考えて頂こうという趣旨である。

前者に関連しては，幸い，昭和51年から理学部の特定研究としてレーザー科学が始まっているので，そのお世話役の物理教室の桑原教授に企画をお願いし，また，電子分光について化学教室の中に，田丸教授，黒田教授らのつよい研究グループがあるので，その辺のお話を願うことにした。また，センター専任の岩村助教授はかねてＣＩＤＮＰ（化学誘起核分極）法の我が邦の草分けで，特に最近この手法を使って新しい化学結合のくみかえを発見されておられるので，新物質の生誕につながる分光は，まさに分光化学センターの狙いでもあるので，同助教授にお話を願うこととした次第である。

以上のような方針で今後センターの活発な活動をはかりたく，各位の一層の御協力，御力添えを願う次第である。